

研究機関：広島大学

研究課題名	肝疾患における胆汁酸の影響についての検討
研究責任者名	広島大学病院 総合内科・総合診療科 教授 田妻 進
研究期間	2019年4月22日(倫理委員会承認後)～2024年3月31日
対象者	2013年1月1日から2018年12月31日までに、広島大学病院 移植外科にて肝細胞癌、胆管癌、非アルコール性脂肪性肝炎、原発性硬化性胆管炎(PBC)、原発性胆汁性胆管炎(PSC)で手術を受けられた患者
意義・目的	肝臓で生理的に産生される胆汁酸は消化吸収など生体において必須である一方で、各種胆汁酸種のバランス破綻は非アルコール性脂肪性肝炎を背景とする肝癌の発癌や癌の進展や、原因不明のPBC/PSCの病態に關与することが判明しつつあります。その機序の1つとして、胆汁酸が肝臓の星細胞老化を惹起し、その結果様々な液性因子の分泌が誘導されること(Senescence-Associated Secretory Phenotype: SASP)が動物・細胞実験で証明されています。本研究では、ヒトの術後組織検体を用い、これらの現象が実際に認められるかについて証明することを目的としています。
方法	本研究ではすでに手術をうけた患者の切除肝組織を用いて、SASPに關連するマーカーの発現とその局在について検討を行います。研究結果と患者情報(年齢、性別、最終診断と疾患背景、臨床経過、臨床症状、理学所見、血液検査所見、組織所見)の關連について検討しますが、個人情報を匿名化することで情報が漏洩することはありません。
共同研究機関	当科のみでの研究になります
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 総合内科・総合診療科 教授 田妻 進
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel: 082-257-5461 広島大学病院 総合内科・総合診療科 准教授 菅野 啓司